



## ～東北ブロックAIDS/HIV心理・福祉連絡会議 に参加して～

平成27年10月24日(土)、国立病院機構仙台医療センターにおいて、平成27年度東北ブロックAIDS/HIV心理・福祉連絡会議が行われました。参加者より感想をいただきましたので、ご紹介させていただきます。

現在HIVは診断方法や治療法が確立され、感染しても薬を決まった時間に飲むことで、亡くなる疾患ではなくなりました。治療薬の開発も進んでいます。そのため、専門医ではなく一般内科でも治療が可能となっています。

その一方、今後の課題としてはHIV感染患者が高齢化してきていることがあげられます。そのため在宅生活が困難になってきた場合、施設の受け入れ先での理解をしてもらうことが必要となってきます。HIV薬は内服薬しかないことから、内服できなくなった場合は治療ができなくなるということが課題となってきます。

飲み続けることの大変さや、発症したことによる患者の自責感・不安に寄り添い理解することも大切であると感じました。各職種がもつ専門的知識や判断をもとに、チームで協働し患者を支援していくことが重要となります。

現在は治療できる病院が限られていますが、近い将来どの病院でも治療できることが考えられます。今回のエイズに関する意識調査の結果の中でもHIV患者を支援することに不安を感じている人が多いことから、いつでも支援できるように準備しておくことが必要と感じました。

公立岩瀬病院 鈴木 満

## ～エイズ街頭キャンペーンに参加して～

平成27年12月1日(火)、会津若松市アピタ前にて15時から1時間半、エイズに関する普及啓発を目的に街頭キャンペーンが行われました。

会津方部からは2名の会員が参加しました。例年通り、会津保健福祉事務所の方・市役所の方・ボランティアの方が参加し、入口ごとに分かれ、普及活動目的に啓発資材(ティッシュにレッドリボンの入った物)配りを行いました。